

2.6.3 自由長部グラウトの，引抜き耐力への影響について

摩擦（引張）型アンカー等では図 6.3.1 に示すように，自由長部のグラウト材が引抜き抵抗に影響を及ぼすため，グラウト作業を以下のように段階的に行う必要がある．

- (1) 定着部のみグラウト（一次注入）した後，品質保証試験を行う．
- (2) 上記によりアンカー体の安全性を確認した後，自由長部のグラウト（二次注入）を行う．

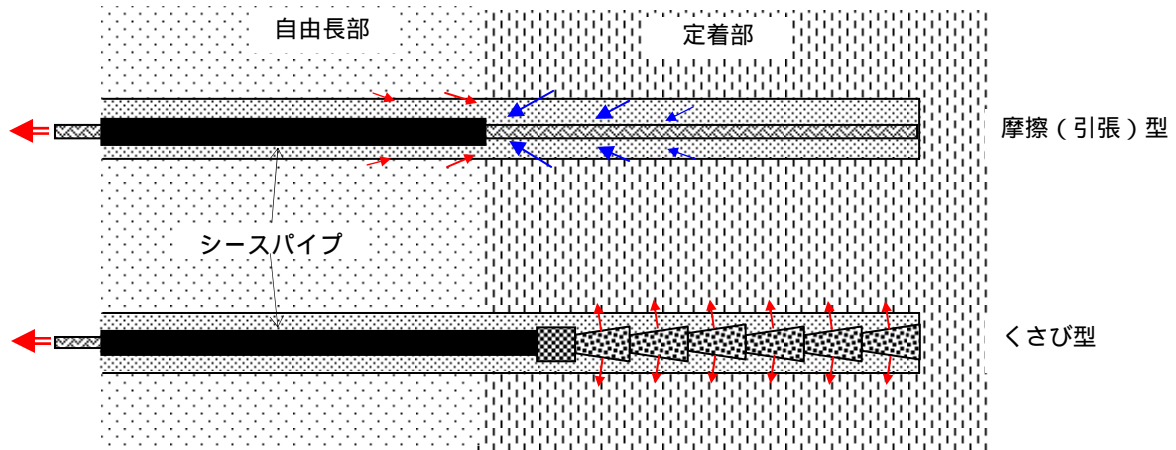


図 6.3.1 自由長部のグラウトによる引抜き耐力への影響

これに対し，くさび型では図 1.6.2 のように，くさび力が孔壁にほぼ直交する方向に作用するため，自由長部のグラウト材が引抜き耐力に影響することはない．

ただし，くさびが作動する荷重（150kN 付近）まではアンカー引張軸に対し 70° 程度の角度で作用しており，この間は自由長部の引抜き抵抗が多少影響する．

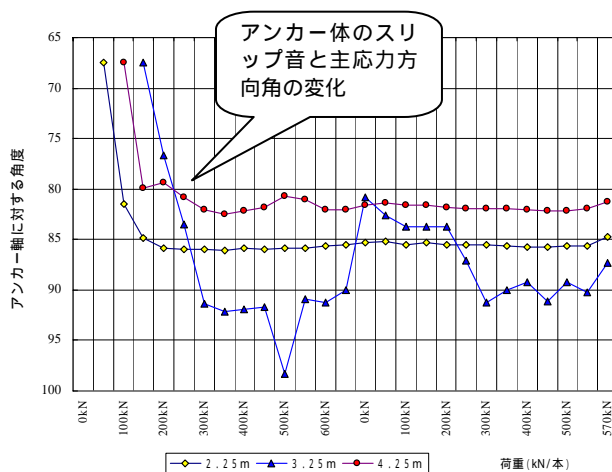


図 1.6.2 アンカー体主応力方向角

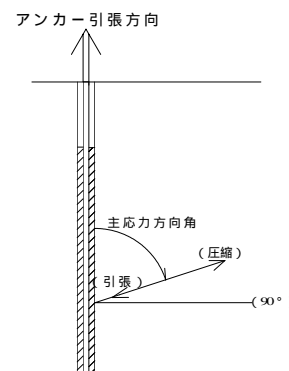


図 1.6.3 アンカー体主応力方向角説明図